



自立と誇りある
日本をつくります



自民党員を募集しています！詳しくはスタッフまで！

自由民主党衆議院議員【埼玉3区（草加市・越谷市）】

「ゲートキーパー」を知っていますか？～日本の自殺対策について～

特集：自立と誇りある日本

ICPD（国際人口開発会議）25周年記念 ナイロビ・サミットに参加

きかわだステーション



第72号

きかわだひとしFBはこちら！友達募集中！↑↑↑

衆議院議員黄川田仁志事務所発行 電話 048-933-0591

「ゲートキーパー」を知っていますか？～日本の自殺対策について～

自由民主党衆議院議員の黄川田仁志です。令和2年が始まりました。今年は、何と言っても東京五輪・パラリンピックが開かれる、我が国にとって特別な一年です。昨年同様、地域の皆様に様々なご意見、ご指導を賜りながら、心新たに、国政に精進して参る所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

1月下旬（一部報道では20日開会予定）からは、いよいよ通常国会が始まります。2019年度補正予算案、2020年度本予算等、国民生活に大きく影響する課題が山積している状況です。引き続き、気を引き締めて臨んで参りたく思っております。

さて、読者の皆様は「ゲートキーパー」という言葉を聞いたことがありますか？「ゲートキーパー」とは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげたり、見守ったりしていただく方のことです。現在、厚生労働省が自殺対策事業の1つとして、普及、啓発に取り組んでいます。

なぜこのような取り組みが始まったのでしょうか。

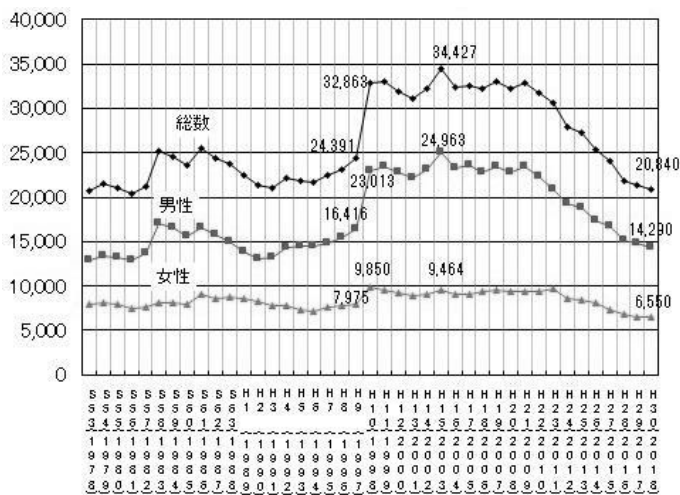
実は、日本は、ピーク時の平成15年を境に、自殺者数が約1万4千人程度減っている（資料1参照）ものの、他の先進国と比較すると依然として自殺死亡率が高い（資料2参照）という課題があります。また、若年世代（15～34歳）の死因で自殺が第1位（裏面資料3参照）であるのも、日本の大きな課題です。

平成18年に超党派（与野党合同）の議員立法で自殺対策基本法が成立し、自殺対策が強化されました。さらには、平成28年に同法を改正し、自治体毎に地域自殺対策計画を策定することが義務付けられ、地域でも、自殺対策事業が始まりました。しかし、このように国と地域で自殺対策に取り組む枠組みがつけられたにもかかわらず、国際的には、日本は自殺が多い国なのです。

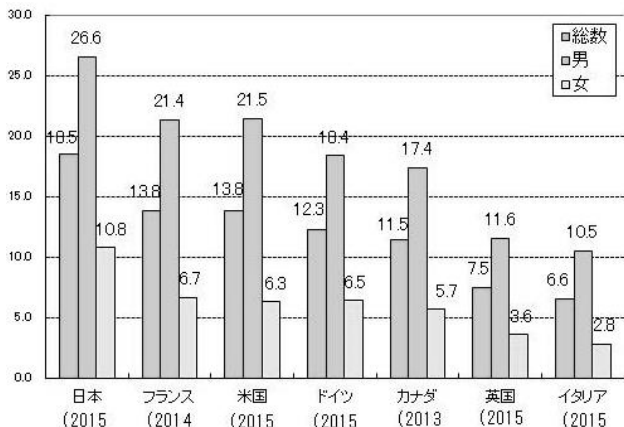
従って、まだまだ対策を考え、実施しなければならない厳しい状況です。

私は、これからの自殺対策に必要な視点は「深刻化させない」と「複合的な支援体制の充実」にあると考えます。ほとんどの自殺の原因は1つではありません。様々な原因が複雑に絡み合っています。それは特別なことではなく、私たち一人ひとりが色々な悩みを抱えて生活していることと変わりありません。いくつもある悩みのうち1つだけでも、気が付いてくれる人や相談にのってくれる人がいれば、**裏面に続く**

【資料1】日本の自殺者数の推移 ※警察庁統計より厚労省作成



【資料2】先進国の自殺死亡率 ※WHO資料より厚労省作成



【資料3】先進国の死因順位（15～34歳、死因の上位3位）※WHO資料より厚労省が作成

	日本 2015			フランス 2014			ドイツ 2015			カナダ 2013			アメリカ 2015			イギリス 2015			イタリア 2015			韓国(参考) 2015			
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	
第1位	自殺	4132	16.3	事故	1,985	12.9	事故	1,724	9.0	事故	1,868	19.6	第1位	事故	34,005	38.7	事故	2,596	15.3	事故	1,342	10.5	自殺	2,237	16.3
第2位	事故	1633	6.4	自殺	1224	7.9	自殺	1,426	7.5	自殺	1,012	10.6	第2位	自殺	12,438	14.1	自殺	1,255	7.4	悪性新生物	794	6.2	事故	1,152	8.4
第3位	悪性新生物	1300	5.1	R00-R99※	966	6.3	悪性新生物	1,033	5.4	悪性新生物	513	5.4	第3位	殺人	9,593	10.9	悪性新生物	1,060	6.3	自殺	530	4.1	悪性新生物	835	6.1

それを起点に、他の悩みを解決するための糸口につながって行くことも十分にあり得ます。

自殺対策は1つのカテゴリーとして捉えることも必要ですが、生活支援、医療や介護の支援、福祉に係る支援、教育や労働問題に係る支援等、既に存在する様々な支援体制が相互につながり、情報を共有し活用することで、自殺したいという深刻な状態になる前の段階で、何らかの対応ができるようにすることが極めて重要です。「ゲートキーパー」を育成することも、その重要な対応策の1つと考えます。そして、このような対応を実現するためには、私たちの生活に最も身近な地域の現場での取り組みが重要になってくることは言わずもがなです。

昨年、複合的に自殺対策に取り組む地域をバックアップするため、新たな自殺対策に係る法律が超党派の議員立法で成立しました。複合的支援には柔軟な対応が必須であり、全国画一になりがちな国の取り組みだけでは不十分です。地域の現場にいる様々な立場の皆様が円滑に協力し合える環境をつくるのが何よりも重要であることを忘れず、引き続き、国としてバックアップ体制を整えていきたいと思えます。その一環として、地域の現場で重要な役割を担っていくことが期待される「ゲートキーパー」の育成等が全国的に広がるよう、衆議院議員として、しっかりサポートしなければならないと考えています。私たちは誰も、何かをきっかけに、窮地に追い込まれる可能性があります。本当に困ったときに支え合える仕組みを身近なところにどう構築していくか。引き続き、しっかり関心を持って取り組んで参ります。

令和2年1月吉日 黄川田仁志

特集:自立と誇りある日本

ICPD (国際人口開発会議) 25周年記念 ナイロビ・サミットに参加



日本を代表として基調講演をさせていただきました

昨年11月12日から14日にかけて、ケニアの首都ナイロビで、ICPD(国際人口開発会議)から25周年を記念するナイロビ・サミットが開催されました。そして日本を代表して、私と増子参議院議員が参加致しました。

ICPDは、1994年にエジプトのカイロにおいて世界で初めて人口問題を考えるために開かれた国際会議で、5年毎に行動計画や目標を確認しています。

このナイロビ・サミットの一部として開催された、世界各国の国会議員による会合において、私は基調講演をする機会を頂きました。講演では、日本が保健医療分野を通じて積極的に世界人口問題に向き合ってきたことを紹介し、科学的データや客観的な指標を用いて人口問題に関するプログラムの評価・改善に努めるべきであると提言させていただきました。

日本国内は急激な人口減少社会に対応するために、国の政策の見直しを迫られていますが、世界全体を見ますと、アフリカを中心に人口爆発の危機に直面しています。この両極端な2種類の人口問題に、日本は国内外で同時に取り組んでいかなければならなりません。

きかわだひとしとは？…自民党衆議院議員3期目。東京理科大学卒業、米州・ワシントン大学大学院修了。昭和45年生。趣味は剣道、空手、野球、落語。妻、長女と越谷市内に在住。第3次安倍改造内閣で外務大臣政務官(北米・中南米担当)。衆議院では、外務委員、法務委員、憲法審査会委員、東日本大震災復興特別委員。党では、衆院国対委員会所属、国交部会長代理、海洋総合戦略小委員会事務局局長等を務める。海洋政策が専門。